

大島正隆文書 目録

[凡例]

- ・資料番号のローマ数字は寄贈者の区別を表し、ついで封筒番号、枝番号となる。
- ・記載の順序は、原則として目録作成に着手した段階の整理状況に依存している。同一封筒内にある同種で日付の明確な資料については原則として時系列に配した。
- ・表題欄は、基本的に原資料のタイトルに基づいている。原資料にタイトルが無い場合は内容を勘案し、便宜的に〔 〕で示した。
- ・作成者欄・作成年代欄の〔 〕は、原資料に明記はされていないが、推定できるものを記した。
- ・形態欄の法量の単位はmmである。
- ・人物の肩書きは資料が作成された当時のものである。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	1-1	〔黒表紙手帳〕	大島正隆	1937年製	手帳(129×70)	1冊	書き入れ多数(ラテン語の起源、国史会十二月例会など)。	東京電気株式会社(マツダ)製。書き入れの最終日付は、1939年10月22日。
大島	I	1-2	〔黒表紙手帳〕	大島正隆	1939年製	手帳(130×79)	1冊	書き入れ多数(小牛田発掘行、国史学会例会など)。	丸善製。書き入れの最終日付は、1942年11月1日。
大島	I	1-3	〔黒表紙手帳〕	大島正隆	1940年製	手帳(130×79)	1冊	「本手帳内容」として、矢内原講演内容、秋田・大館史料調査行など9項目を挙げる。	丸善製。書き入れの最終日付は、1943年6月19日。
大島	I	2-1	留守氏(1)	〔大島正隆〕	不明	手製メモ帖(方眼96×148)	表紙共21枚	吾妻鏡・新編追加・留守文書・白河文書・飯野国魂文書・大悲山文書・鬼柳文書・相馬文書・結城小峯文書・伊達家文書・伊達治家記録から史料を抽出し筆写。	奥羽史料調査部の封筒(「留守氏関係」の記載あり。「東北大学記念資料」の印あり)を利用した袋に収納。以下、I-2-12まで同じ封筒に入る。
大島	I	2-2	留守氏(2)	〔大島正隆〕	不明	手製メモ帖(方眼96×148)	表紙共27枚	留守家分限帳・留守領古碑(「岩切東光寺境内発掘の板碑と其出土状態」・『宮城郡誌』)・相馬文書・大悲山文書・仙台金石志・封内風土記・奥羽観蹟聞老志・鹽竈神社史・結城古文書写・白川文書・佐々木文書・近江栗太郡志(宮城系図)・高城文書・仙台領古城書上・阿蘇文書から史料を抽出し筆写。多賀城村・高砂村・岩切村・利府村・松島町の地名調査メモ。論文読書メモ。	
大島	I	2-3	留守系譜	〔大島正隆〕	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共7枚	留守系譜の筆写。	
大島	I	2-4	塩釜神社文書	大島正隆	1940年11月8日	手製メモ帖(方眼・無罫94×143)	表紙共8枚	鹽竈神社文書(東大史料編纂所影写本)の筆写。奥書に1940年11月8日筆写の記載あり。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	2-5	陸奥介八幡氏・大掾沢田氏・留守氏関係史料	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼99×148)	表紙共10枚	白河文書・小泉文書・結城小峯文書・小瀬赤坂文書・伊達正統世次考から史料を抽出し筆写。花押の影写メモ。	
大島	I	2-6	奥州余目記録(大槻氏本・仙台叢書所蔵) 文治一永正十一年	[大島正隆]	1941年3月26日	手製メモ帖(方眼97×148)	表紙共13枚	仙台叢書所収「奥州余目記録」の筆写。表紙に「昭和十六年三月廿六日、水沢町小幡氏所蔵原本ニツキ要所校訂畢」の記載あり。	
大島	I	2-7	留守家分流系図・留守文書	[大島正隆]	1940年11月5日	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共4枚	留守家分流系図の筆写。留守文書より史料を抽出し筆写(奥書に「昭十五・十一・五抄写了」の記載あり)。	
大島	I	2-8	留守系譜別本	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×148)	表紙共6枚	留守系譜別本の筆写。	
大島	I	2-9	余目文書	大島正隆	1940年11月7日 1941年3月26日	手製メモ帖(方眼97×142)	表紙共7枚	余目文書の筆写。表紙に「昭和十六年三月廿六日、水沢町日高小路小幡仲吾氏蔵原書ニヨリ校訂」、六枚目末尾に「右写了、昭十五・十一・七、隆」、7枚目奥に「右、於水沢小幡家探訪、昭和十六年三月廿六日」の記載あり。	
大島	I	2-10	余目氏家譜略	大島正隆	1940年11月6日	手製メモ帖(方眼97×149)	表紙共3枚	余目氏家譜略の筆写。奥書に「右抄写了、昭十五・十一・六、隆」の記載あり。	
大島	I	2-11	[史料メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ(方眼96×148)	4枚	留守氏・村岡氏系譜の考察メモ。地名のメモ。留守文書より史料を抽出し筆写。	
大島	I	2-12	[論文草稿断簡]	[大島正隆]	不明	奥羽史料調査部原稿用紙(258×345)	1枚	表側は留守氏の系譜に関する論文草稿。裏側は留守氏関係の年表メモ。	
大島	I	3-1	秋田家文書 織田家御内書十四通(三春町役場保管分) 十六年六月十五日探訪	[大島正隆]	1941年6月15日	手製メモ帖(方眼97×147)	表紙共11枚	「秋田家文書」(『文化』9-9、1942年)の準備過程で作成したものと思われる。ペン書き。	大島が筆写した文書は現在、行方不明であり、本メモはそれらの全貌を知ることのできる唯一の手がかりである。
大島	I	3-2	秋田家系図(秋田四十二郎氏蔵本)十六年六月十七日写了 東京都杉並区成城一丁目一三二	[大島正隆]	1941年6月17日	手製メモ帖(方眼97×147)	表紙共4枚	標題の史料の筆写。	ペン書き。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	3-3	[封筒]	—	—	封筒(170×120)	1点	仙台市東一番丁フジヤ書店名の封筒。秋田史料関係のメモを収める。	
大島	I	3-4	秋田家文書 海運史料(伏見作事ヲ中心トセル)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×147)	表紙共22枚	標題の史料の抜き書き。大島「秋田家文書による文禄・慶長初期北国海運の研究」(1941年)の準備過程で作成したと考えられる。	ペン書き。
大島	I	3-5	秋田家海運史料計算メモ	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×147、無罫90×140)	表紙共8枚	標題のメモ。大島「秋田家文書による文禄・慶長初期北国海運の研究」(1941年)の準備過程で作成したと考えられる。	ペン書き。
大島	I	3-6	秋田之系図両家弁南葵文庫本(浪岡具雄氏蔵)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×147)	表紙共5枚	標題の史料の筆写。	ペン書き。
大島	I	3-7	羽賀寺縁起	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(102×150)	表紙共5枚	羽賀寺縁起(群書類従27上)・同別本(同)の筆写。	ペン書き。
大島	I	3-8	[安東氏関係文書メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ(方眼97×147)	1枚	史料編纂所での調査にかかわるメモか。	ペン書き。
大島	I	4-1	[封内風土記抜書封筒]	—	—	177×115	1点	封内風土記抜書を収めた封筒。	
大島	I	4-2	明和壬辰正月 封内風土記 田辺希文	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×147)	2点	封内風土記からの抜書。	
大島	I	5-1	隠岐島遊覧案内	隠岐島汽船株式会社	1938年7月15日発行	620×214	1点	隠岐島の観光案内。	大島が現地で購入したものか。
大島	I	5-2	慶長四年隠州別府御検地帳(抄録)(黒木村役場蔵)	[大島正隆]	1938年7月31日	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共5枚	標題の史料の抜書。	鉛筆書き。
大島	I	5-3	隠岐島前 黒木村宇賀 漁業聴書	[大島正隆]	1938年7月31日	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共12枚	黒木村宇賀の漁業関係の聞き取り。	ペン書き、鉛筆書き。
大島	I	5-4	隠岐島前 黒木村焼火山 松浦静麿氏談	[大島正隆]	(1938年7・8月)	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共5枚	海上禁忌等に関する聞き書き。	ペン書き。
大島	I	5-5	隠岐 都万村津戸 松浦源市氏漁法聞書	[大島正隆]	1938年8月4日～7日	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共56枚	松浦源市からの聞き取り。	鉛筆書。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	5-6	隠岐 都万村邦久 聞書	[大島正隆]	1938年8月8~12日	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共30枚	安倍慎一(65歳)、安倍良一(63歳)、斉藤ミヨ(71歳)、斉藤唯次郎(67歳)からの聞き取り。	鉛筆書。
大島	I	5-7	隠岐 都万村油井 聞書 和田権三郎氏(明治九年)	[大島正隆]	1938年8月13~16日	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共35枚	和田権三郎からの聞き取り。	ペン書き。
大島	I	5-8	隠岐島後 都万村津戸 古川弥太郎氏(漁業組合長)談	[大島正隆]	(1938年8月)	手製メモ帖(方眼97×154)	表紙共6枚	古川弥太郎からの聞き取り。	鉛筆書をペンで上書き。
大島	I	5-9	[写真]	[大島正隆力]	(1938年7・8月)	35×61	3枚	大島が撮影したと思われる隠岐の風景写真(モノクロ)。1点は断片(17×55)。	隠岐島遊覧案内に挟まれていた。
大島	I	5-10	[写真]	[大島正隆]	(1938年7・8月)	概ね35×61	26枚	大島が撮影したと思われる隠岐の風景・人物・民俗行事等の写真(モノクロ)。	
大島	I	5-11	焼火神社案内	[大島正隆]	不明	134×375	1点	焼火神社の案内パンフレット。	大島が現地で入手したものか。
大島	I	5-12	隠岐国志料 上野図書館蔵 五十六冊	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(原稿用紙転用100×155)	表紙共8枚	標題の史料の抜書。	ペン書き。
大島	I	5-13	隠岐島前 焼火神社	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(原稿用紙転用100×155)	表紙共5枚	焼火神社についての諸文献からのメモ。	
大島	I	5-14	[隠岐島関係古代史料メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ(方眼97×154)	3枚	六国史、三代実録、延喜式等から隠岐島関連資料を抜き書きしたもの。	
大島	I	5-15	[千田基久兵衛書簡]	千田基久兵衛	1939年5月19日	便箋(260×180)	5枚	大島正隆宛に民俗儀礼について書き送っている。	便箋に「砂子浜 大や用箋 千田基久 兵衛 振替仙台一七〇」とある。基久兵衛は千田家当主で、千田家文書所蔵者。大島「海上の神火」(『文化』6-7)参照。
大島	I	6-1-1	本邦城郭変遷一覽表(昭和四年五月廿五日一廿七日 東北帝大史学談話会主催展覧会陳列ノ一部)	不明	1929年5月25日以前	B4藁半紙ガリ版刷	1枚	東北帝大史学談話展覧会の展示解説資料。	6-1-1/2は一組。
大島	I	6-1-2	史学展覧会陳列目録	不明	1929年5月25日以前	B4藁半紙ガリ版刷	1枚	東北帝大史学談話展覧会の展示解説資料。	6-1-1/2は一組。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	6-2-1	[古文書写]	[大島正隆]	不明	B4藁半紙 ガリ版刷	1枚	葛西氏関係古文書調査のメモ。古文書等4点を写す。	6-2-1/2は一組。
大島	I	6-2-2	[古文書メモ断片]	[大島正隆]	不明	B4藁半紙 ガリ版刷 の半裁	1枚	古文書調査のメモ。葛西領関係。	6-2-1/2は一組。
大島	I	6-3	[豊臣秀吉文書写]	[大島正隆]	不明	手製メモ (方眼98 ×154)	1枚	名取郡岩沼村古内文書中の(年付なし)10月17日付豊臣秀吉文書の写。	
大島	I	6-4	[大島正隆書簡]	[大島正隆]	不明	絵葉書	1枚	桃生郡前谷地黒沢・斉藤養治郎宛て。大島との関係は不明。	消印あり。
大島	I	6-5	佐藤氏 南狩遺文 (史料本) 佐藤文書	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 7枚	東大史料編纂所影写本の佐藤文書の写。	花押を写す。
大島	I	6-6	閉伊氏	[大島正隆]	1940年9月25 日以降	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 8枚	閉伊文書の写と田中喜多美「吉野朝に於ける閉伊勤王の一端」(『岩手日報』)の切り抜き。	作成年代は新聞記事にある脱稿年月日による。文書は田中喜多美の写・稿本より筆写。田中は岩手県誌編纂委員。
大島	I	6-7	佐竹家譜 佐竹旧記 (史料編纂所本)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 6枚	東大史料編纂所所蔵の佐竹家譜・佐竹旧記の抜書。	
大島	I	6-8	長江氏	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 4枚	伊達正統世次考からの長江氏関係文書抜書。	
大島	I	6-9	最上家譜(抄録)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(無罫 91×144)	表紙共 6枚	最上家譜の抜書。譜牒余録により訂正を施す。	
大島	I	6-10	男鹿に於ける安藤氏 「男鹿名勝誌」抜書	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(無罫 102× 149)	表紙共 6枚	男鹿名勝誌の抜書。	男鹿名勝誌について「明治十七年秋田狩野徳蔵著 上下二巻」とある。
大島	I	6-11	安倍・安東氏	[大島正隆]	不明	手製メモ (方眼98 ×148)	表紙共 20枚	諸史料からの安倍・安東氏に関わる記事・文書の抜書。	
大島	I	6-12	伊達家文書五 白石 家	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×154)	表紙共 4枚	伊達家文書中の白石家関係史料の抜書。	
大島	I	6-13	安永四年風土記御用 書出 志田郡	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×154)	表紙共 5枚	標記史料からの抜書。	
大島	I	6-14	大宝寺武藤氏	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 7枚	庄内人名辞書、最上義光公略伝、増訂最上郡史、飽海郡志などからの抜書。	表紙に「庄内人名辞書、最上義光公略伝、増訂最上郡史、飽海郡志」とある。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	6-15	工藤氏 吾妻鏡	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共4枚	工藤氏に関する吾妻鏡の記事の抜書。	
大島	I	6-16	歴代古案	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×144)	表紙共5枚	歴代古案からの抜書。	
大島	I	6-17	岩ノ下 鈴木家文書	[大島正隆]	1938年10月20・21日	手製メモ帖(方眼 98×154)	表紙共11枚	岩手県東磐井郡松川村(現一関市松川)岩ノ下の鈴木啓治郎氏所蔵文書の採訪。	作成年月日は、1938年10月21日両親宛書簡(Ⅱb-29)による。鈴木家には大島正隆の書簡2通が現存する。
大島	I	6-18	砂越氏	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共5枚	諸史料からの砂越氏に関する記事の抜書。	表紙に「庄内人名辞書 春陽士鑑 飽海郡志」とある。無罫用紙が2枚あり。
大島	I	6-19	筆乃余り 鶴岡図書館本	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 98×148)	表紙共5枚	筆乃余りからの抜書。	表紙の他は方眼。
大島	I	6-20	吾妻鏡 奥羽関係記事	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共11枚	吾妻鏡からの奥羽関係記事抜書。	表紙に(葛西・留守・南部・工藤・小野寺等各氏ノ分ハ別ニ抜書アリ)とある。
大島	I	6-21	譜牒余録後編四(最上家之部)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×144)	表紙共4枚	標記関連史料からの抜書。	
大島	I	6-22	親元日記(奥羽関係記事)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共3枚	斉藤親元日記からの奥羽関係記事抜書。	
大島	I	6-23	陸前齊藤文書(史料編纂所本)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共8枚	標記文書(八戸(遠野)南部家文書)の抜書。影写本による。	表紙に登録番号のメモあり。花押を写す。
大島	I	6-24	史料編纂所 羽後関係文書	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×144)	表紙共6枚	東大史料編纂所の秋田県関係文書の写。	
大島	I	6-25	小野寺本堂両氏書状 岩手県教育会蔵	[大島正隆]	1941年3月28日	手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共4枚	標記文書の写。	表紙に「(田中喜多美氏写本ニヨル) 十六年三月廿八日」とある。田中氏の所考を付す。
大島	I	6-26	奥州山内氏	[大島正隆]		手製メモ帖(方眼 98×148)	表紙共6枚	山内家文書の抜書。	表紙に「山内家文書 伊達正統世次考」とある。
大島	I	6-27	[未使用封筒]	—	—	封筒(98×144)	1点	未使用の封筒	
大島	I	6-28	[封筒]	不明	不明	東北大学文学部封筒	1点		「教授古田良一殿」というゴム印が捺され消されている。「コノ外ニ文化九ノ九東北地方史特輯号ノ歴史地理八ニノ五ノ右ノ雑誌ニ大島正隆君ノ論文アリ」と記されている。古田良一のメモ書か。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	6-29	[封筒]	不明	—	封筒(166×116)	1点		「大島君」と青鉛筆で記されている。
大島	I	6-30	[メモ用紙]	—	—	メモ用紙	17枚	未使用の方眼メモ用紙。	一つに「処分状」と記されている。
大島	I	6-31	[紙]	—	—	半紙	1枚	未使用。	インクしみあり。
大島	I	6-32	[紙]	—	—	藁半紙断片	1枚	未使用。	
大島	I	6-33	[花押影集]	[大島正隆]	不明	トレーシングペーパー(140×202)	1枚	相馬文書、南部文書からの花押7点のトレース。	
大島	I	6-34	[花押メモ]	[大島正隆力]	不明	薄紙(144×205)	1枚	鬼柳文書や相馬文書の花押9点写し。	
大島	I	6-35	[封筒]	—	不明	封筒(160×118)	1点	曾我文書のメモを入れていた封筒か。	奥羽史料調査部の整理封筒を切ったものか。鉛筆書「曾我氏」。
大島	I	6-36	[封筒]	—	—	封筒(160×118)	1点	留守文書のメモを入れていた封筒か。	東北帝大国史研究室山本柗蔵から大島正隆(「水沢尋常高等小学校御気付」、小字で「日高小路小幡伸(以下見えず)」とも記される)に宛てた書簡封筒を裏返したもの。鉛筆書「留守氏」。消印は「昭和16年3月25日」。未発表の「奥州留守氏考」に「1941年3月25日水沢国民学校」と記される。
大島	I	6-37	[封筒「秋田家文書 佐々淡路守状二通」]	不明	不明	封筒(160×116)	1点	標題の文書をメモを入れていた封筒か。	東北帝大法文学部の封筒。表に「東北帝国大学国史研究室」の朱印が捺されている。86/7560の番号が記される。
大島	I	6-38	[断片]	[大島正隆]	不明	ボール紙(91×138)	1枚		「地名類集」と記される。
大島	I	6-39	[メモ]	[大島正隆]	不明	奥羽史料調査部原稿用紙半裁(256×240)	1枚	足利氏、伊達氏、大崎氏、留守氏、関東公方の歴代と偏諱に関するメモ。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	6-40	[メモ]	[大島正隆]	不明	奥羽史料調査部原稿用紙断片(256×124)	1枚	南北朝・室町時代に関する考証メモ。	
大島	I	6-41	[メモ]	[大島正隆]	不明	断片(220×142)	1枚	岩手県南部調査の際のメモか。	
大島	I	6-42	[メモ用紙]	—	—	140×90	27枚	無罫。未使用。	
大島	I	6-43	[メモ用紙]	—	—	98×154	4枚	方眼。未使用。	
大島	I	6-44	[古文書写真]	—	不明	80×125	1枚	8月22日付「浪岡殿」宛て某信家書状の写真。裏書「(弘前 松野武雄氏所蔵ノモノ)盛岡にて菅野図書館長より頂く」。	
大島	I	6-45	[小池文書写]	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼100×155)	3枚	小池文書は旧越後国岩船郡三面村小池大炊助氏所蔵文書。史料編纂所影写本の筆写か。	
大島	I	6-46	伊達氏世臣中島氏	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼100×155)	2枚	仙台人名大辞書の中島伊勢・中島大蔵項抜粋。	
大島	I	6-47	[花押影]	[大島正隆]	不明	便箋(255×180)	1枚	花押2点の写し。「慶長五、十二、十七左衛門口」とメモあり。	
大島	I	6-48	湊合戦覚書	[大島正隆]	不明	史料カード(116×87)	6枚	標題の史料の筆写。2頁～13頁。	I-7-7に1枚目がある。
大島	I	6-49	[織田期史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼100×155)	12枚	左肩に[織田]と記す。伊達治家記録、伊達家文書、遠藤文書、信長公記、秋田藩家蔵文書等の筆写・メモ。	
大島	I	6-50	[豊臣期史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼100×155)	53枚	左肩に[豊臣]と記す。伊達治家記録、伊達家文書等の筆写・メモ。	
大島	I	6-51	[豊臣—徳川期史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼100×155)	1枚	左肩に[豊臣—徳川]と記す。伊達治家記録、伊達家文書の筆写・メモ。	
大島	I	6-52	[徳川期史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼100×155)	5枚	左肩に[徳川]と記す。伊達治家記録、新編会津風土記、白河文書等の筆写・メモ。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	6-53	[史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼100 ×155)	140枚	左肩に[葛西]、[大崎葛西]、[最上]、[佐竹]、 [小野寺]、[上杉]、(秋田)、(小野寺)、(阿曾 沼)等と記す。	
大島	I	6-54	文禄二年岩代国大八 郷検地帳	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(原稿 用紙98× 150)	2枚	架蔵場号391/22。「岩代国大沼郡本郷村 千代宇八郎蔵本/明治廿二年四月文科大 学教授星野恒探訪」とあるので、史料編纂 所での筆写。	
大島	I	6-55	[史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (無罫100 ×151)	1枚	葛西氏近臣に関するメモ。	
大島	I	6-56	[秋田家史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼100 ×155)	3枚	秋田家史料の杉材運上に関わる計算メモお よび家系に関するメモ。	
大島	I	6-57	[焼物実見メモ]	[大島正隆]	不明	トレーシ ングペー パー(98 ×130)	1枚	焼物の一部のスケッチ。「細かいヒビがある 処々黒斑あり 赤褐色」とのメモあり。	伊東信雄氏のメモか。
大島	I	6-58	[御本判写]	[大島正隆]	不明	和紙(214 ×275)	1枚	文禄2年7月20日付御本判(横沢)の筆写。 青鉛筆・赤鉛筆書き。	
大島	I	6-59	[メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (無罫89 ×144)	2枚	1点は尾張国井戸田荘に関するメモ。1点は 「皇室領」「欧州トノ比較」「下地中分」等と記 した走り書き。	
大島	I	6-60	[受講メモ]	[大島正隆]	1940年1月～ 42年7月頃	メモ用紙 (方眼97 ×147)	19枚	大島の受講メモ。演習、古文書学など。	作成年代は日付のあるものの最初と最 後を記した。
大島	I	6-61	[応仁の乱に関するメ モ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×147)	4枚		
大島	I	6-62	辻博士 史林 実記 附録巻九	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×147)	1枚	論文読書メモ。	
大島	I	6-63	[宗教・哲学等に関す るメモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×147)	14枚		

資料番号		表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I 7-1	古文書講義	[大島正隆]	(1940年-41年)	手製メモ(方眼 96×148)	21枚(うち2つは、3枚を横綴し冊子状としたもの)	古文書講義の聴講メモ。古文書とは何か、材料、様式、外的研究、古文書に現はれたる文字・漢字、用語、文体、書状、論旨、起請文、契状、譲状、避状、附嘱状、勘文、諷誦文、売券など。	手製の封筒(「古文書講義」と表題記載)に収納。 1941年10月6日のメモには、「聴講中一首を作る」として、「刻(とき)の間もいそしまずてやあるべしとたゞに思へどなほ忍ばえぬ」「拙なくも短かき性(さが)よ御教をあくび噛みつゝ忍ぶのみとは」「愚かなる想ひ消えむと愚かなる思ひを歌ふしれ人われは」の三首あり。同月20日のメモには「前日蔵王初雪なり」として三首を記す。
大島	I 7-2	毛越寺文書 [104/27] 十三点ノ内	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(原稿用紙) (97×155)	表紙共7枚	天正期の円隆寺に関する文書等の写し。	
大島	I 7-3	[封筒]	[大島正隆]	不明	手製メモを入れるためと思われる手製封筒 (167×116)	1点		「奥羽史料調査部」の記載ある封筒。封の内側に「熊谷文書」と墨書。
大島	I 7-4-1	南部家記録 十冊 [266/9](史料編纂所本)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 96×147)	表紙共6枚	南部家記録・吉川家文書からの抜粋。	「南部氏」とペン書きした手製封筒(東北学院大学東北文化研究所の封筒)に収納。以下、I-7-4-5まで同じ封筒に入る。
大島	I 7-4-2	[史料メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ(方眼96×147)	10枚	御内書案、結城家蔵文書、男鹿名勝志、太平記、梅松論、建武式目、建武以来追加、佐藤文書、南部家記録等の写し。	
大島	I 7-4-3	(盛岡)南部文書(史料編纂所探訪)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 96×147)	表紙共5枚	慶長年間の南部文書の抜粋。	
大島	I 7-4-4	南部研究参考書目	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 96×147)	7枚綴り	南部史要(1911年菊池悟郎著)巻末に引用参考書目として挙げられた139点を筆写。「特に公刊と断らざるものは凡て写本、又所蔵者の名を記せざるものは凡て南部家所蔵」。	各書目に、内容の概要を略記してある。(もともと『南部史要』に記載されていたものか。)
大島	I 7-4-5	篤焉家訓 南部伯爵家本 森嘉兵衛氏写本抄録	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼 96×147)	表紙共9枚	閉伊郡などに関する部分。	最終頁に、「享保九年辰六月廿六日大洪水有或説に是を白髭水と言とそ」として伝説を略記。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-5	[封筒]	[大島正隆]	不明	手製メモ を入れる ためと思 われる手 製封筒 (160× 110)	1点		万年筆・青鉛筆でメモ書きあり。
大島	I	7-6	秋保村野尻 佐藤家 文書 抄写 1937.4.28	[大島正隆]	1937年4月28 日	手製メモ 帖(無罫 90×143)	表紙共 11枚	名取の二口に関する文書の筆写。	
大島	I	7-7	湊合戦覚書 一綴	[大島正隆]	不明	史料カー ド (116× 87)	1枚	史料の覚書。書き入れ「外題ナシ新写」「甲 廿二 Ⅷ 12」。	「1」の番号が振られている。(I-6-48 の封筒に、「2」以下のカード収納。) 「大宝寺ト云ハ羽黒山ノ別当也大宝寺ノ ヤカト云テ家高也コトニ義氏ハ名将ト 云々」に始まり、愛季公と義氏の合戦に 説き及ぶ。
大島	I	7-8	大宝寺 大崎 伊達 — 上杉 最上	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖 (原稿用 紙の裏紙 を切って 貼り合わ せたもの 180× 440)	1枚	天正10年から18年に及ぶ、伊達・上杉・大 崎・最上の四氏関係についての手製年表。	
大島	I	7-9	堀江文書 最上義光 書状	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(無罫 91×143)	表紙共 2枚	堀江文書(静岡県韮山の堀江榮太郎所蔵) のうち、(年号不明)十月廿二日付、義光よ り西野修理亮殿に宛てた書状の一部。	
大島	I	7-10	金堀鑑札(五枚)元品 杉材	[大島正隆]	不明	和紙 (216× 276)	1枚	御本判の写。表(「文禄三年卯月吉日 横 澤」)・裏(「大橋八蔵、西村左馬助、鯉江権 右衛門」)とも。	
大島	I	7-11	史料編纂所々蔵 岩 代・陸前・陸中・羽後・ 関係文書(明治廿三 年星野恒博士採訪 分)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(原稿 用紙裏紙 97×155)	表紙共 11枚	文書名を列挙。	
大島	I	7-12	中尊寺経蔵文書 第 三巻 廿八点ノ内 [26/27]	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(原稿 用紙裏紙 110× 155)	表紙共 3枚	天正期、関白秀次からの文書など。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-13-1	[封筒]	—	—	116×102	1点	「新編会津風土記」との貼り紙。	
大島	I	7-13-2	[新編会津風土記メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97×148)	42枚	新編会津風土記の抜き書き。	上記封筒に入る。
大島	I	7-14-1	盛岡図書館本 奥州葛西動乱記并附録古文書写 寺崎清慶	[大島正隆]	不明	手製メモ帖 (方眼97×148)	5枚	標題の史料写。	ペン書き。東北大学教養部の封筒(「葛西氏関係」とメモ)に収める。以下、I-7-14-4まで同じ封筒に入る。
大島	I	7-14-2	[葛西氏関係史料メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ帖 (方眼97×148)	表紙共2枚	「盛岡図書館本 奥州葛西動乱期并附録古文書写 寺崎清慶」が剥がれたものか。	
大島	I	7-14-3	盛岡葛西系図 盛岡図書館長菅野氏写本二ヨリ写ス、附・参考諸家系図葛西氏関係分 昭和十六年三月二十九日探訪 附・豊島系図・宮城系図(史料本)	[大島正隆]	1941年3月29日	手製メモ帖 (方眼97×148)	表紙共15枚	標題の史料の写。	ペン書き。
大島	I	7-14-4	葛西氏 吾妻鏡	[大島正隆]	不明	手製メモ帖 (方眼97×148)	表紙共3枚	吾妻鏡の葛西氏関係記事抜粋。	
大島	I	7-15-1	[封筒]	—	—	192×140	1点	仙台市東一番丁フジヤ書店の封筒。	「海村調査」とマジックで記す。I-7-15は全てこの封筒に入る。
大島	I	7-15-2	[及川留吉書簡]	不明	1939年5月	原稿箋 (238×320)	1点	船に関する民俗を伝えたもの。差出人は76歳。	大島「海上の神火」(『文化』6-7)参照。作成時期もそれによる。
大島	I	7-15-3	岩手県東磐井郡松川村岩ノ下 鈴木啓次郎氏(通称若様)	[大島正隆]	(1938年秋頃)	手製メモ帖(無罫) 158×121	表紙共13枚	民俗調査メモ。ペン書き。表紙では最初「慶次郎」と書き、訂正している。内容は海村とは無関係。	作成年月日は、1938年10月21日両親宛書簡(Ⅱb-29)による。鈴木家には大島正隆の書簡2通が現存する。
大島	I	7-15-4	九戸郡宇部村小袖間書 大久保松太郎氏	[大島正隆]	不明	手製メモ帖 (方眼98×154)	表紙共25枚	民俗調査メモ。	大島は1938年9月に九戸郡を調査している(『民間伝承』4-3)。その時のもの。ペン書き。
大島	I	7-15-5	桃生郡宮戸村宝浜話者門間善四郎一家	[大島正隆]	1937年5月30・31日、1939年5月24日	手製メモ帖(無罫) 90×144	表紙共14枚	民俗調査メモ。	大島「海上の神火」(『文化』6-7)参照。ペン書き。
大島	I	7-15-6	牡鹿(牧田君)	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼98×154)	1枚	漁村民俗に関するメモ。	「牧田君」は、民俗学者の牧田茂か。ペン書き。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-15-7	[メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (無罫101 ×151)	5枚	民俗調査に関するメモか。	鉛筆書き(一部ペン)。
大島	I	7-16	[花押写し]	[大島正隆]	不明	トレーシ ングペー パー(140 ×204/ 141× 204)	2枚	相馬文書、留守文書、佐藤文書等からの花 押写。	
大島	I	7-17-1	曾我氏(1)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 42枚	次の史料からの曾我氏関係記事抜き書き。 曾我系図(群書類従)、同(重修家譜)、相模 国風土記稿、武蔵国風土記稿、織田信雄分 限帳、成田家分限帳、南部家文書、斉藤文 書、新渡戸文書、後鑑。	ペン書き。東北学院大学東北文化研究 所の封筒に収める。以下、I-7-17-3ま で同じ封筒に入る。
大島	I	7-17-2	曾我氏(2)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 13枚	次の史料からの曾我氏関係記事抜き書き。 ペン書き。吾妻鏡、三島神社文書、離宮八 幡文書、津軽里名地方誌、近江曾我氏家 記、曾我の里、曾我祐準翁自叙伝、相州文 書、多賀神社文書、古証文、酒出文書。	
大島	I	7-17-3	座右抄 帝国図書館 本抄録 附相州文書 曾我氏関係二通(秋 田実季関係一通)	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×148)	表紙共 8枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-18-1	[封筒]	—	—	封筒(230 ×146)	1点	矢内原忠雄の大島宛(仙台市北二番町六八 管方)封筒を、大島が小島次男(尼崎市南 城内一三八)宛封筒に転用したもの。大島 の在所は山形県飽海郡吹浦村湯ノ田。日付 は、年不明6月1日。また、「東女大学基督教 青年会」「原稿」とも記されている。	
大島	I	7-18-2	[石原謙講義受講 ノート]	[大島正隆]	1939年9月10 日~40年3月 10日	手製ノー ト(原稿用 紙二ツ折 188×111 /194× 132/218 ×140)	13部13 枚	同心町における石原謙の聖書に関する講義 12回分のノート。	反故とされた原稿用紙に浅利氏関係論 文の草稿がある。上記封筒に入る。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-19	[講義受講ノート]	[大島正隆]	1939年7月23日・9月3日	手製ノート(原稿用紙ニツ折178×130)	1枚	石原謙講義受講ノートの一部か。	
大島	I	7-20	[受講ノート]	[大島正隆]	不明	ルーズリーフノート(208×160)	4枚	東洋史の受講ノートか。	
大島	I	7-21	[受講ノート]	[大島正隆]	不明	奥羽史料調査部原稿用紙ニツ折(130×172)	2枚	西洋史と東洋史の受講ノートか。東洋史は曾我部静男教授「貨幣史上より観たる日支関係の変遷に就いて」。	
大島	I	7-22	佐竹諸士系図 舟尾・六郷氏 判物証文写 秀吉朱印状(史料編纂所本)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共4枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-23	末次氏	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共2枚	末次氏について庄内人名辞典、山形県金石文集などから抜き書き。	
大島	I	7-24	親俊日記(奥州関係記事)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共3枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-25	小鹿島氏 吾妻鏡	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共4枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-26	小鹿島古文書(史料編纂所本)	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×148)	表紙共3枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-27	上杉年譜(抄)	[大島正隆]	不明	手製メモ(無罫92×144)	表紙共7枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-28	千葉文書(羽後山本郡森丘村)	[大島正隆]	不明	手製メモ(原稿用紙切断96×154)	表紙共2枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-29	[キリスト教関係メモ]	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×154)	表紙共3枚		ペン書き。
大島	I	7-30	[キリスト教関係メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼98×154)	3枚		ペン書き。
大島	I	7-31	加美郡誌	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×154)	4枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-32	桃生郡誌	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼98×154)	5枚	標題の史料からのメモ。	ペン書き。
大島	I	7-33	史料本 上杉年譜	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼98×148)	4枚	標題の史料の抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-34	[上杉氏関係史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼98×148)	26枚	上杉家文書、伊達家文書等からの上杉氏関係史料の抜き書き。右肩に[上杉]と記す。	ペン書き。
大島	I	7-35	[後北条氏関係史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼98×148)	22枚	伊達家文書、伊達治家記録、遠藤文書等からの後北条氏関係史料の抜き書き。右肩に[北条]と記す。	ペン書き。
大島	I	7-36	[葛西氏関係史料メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼98×148)	25枚	伊達治家記録等からの葛西氏関係史料抜き書き。右肩に[葛西]と記す。	ペン書き。
大島	I	7-37	[封筒]	—	—	148×98	1点	東北帝大法文学部文科会発小島次男(尼ヶ崎市南城内一三八)宛て『文化』発送用封筒を裏返したもの。消印があるが読めず。青鉛筆で3文字記す(「吾妻鏡」か)。	
大島	I	7-38	[豊臣秀吉判物写]	[大島正隆]	不明	276×215(二ツ折)	1枚	(年欠)10月17日付 小田原百姓中宛 羽柴筑前守秀吉判物の忠実な写。	青鉛筆書き。
大島	I	7-39	[封筒]	民間伝承の会	—	205×143	1点	民間伝承の会が大島正隆(仙台市北二番丁六八 菅方)に宛てた封筒。メモの整理に転用したと見られ、「日本封建制度」と記される。	マジックによる後筆「学会・雑誌論文」もある。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-40	[封筒]	—	—	168×117	1点	奥羽史料調査部の史料整理封筒を半分に切断したもの。青鉛筆で「伊達2」(おそらく大島の筆)と記す。	
大島	I	7-41	[封筒]	—	—	160×104	1点	青鉛筆で3文字記す(「吾妻鏡」か)。おそらく大島が使用したものと思われる。	
大島	I	7-42	[封筒]	山本柝蔵	1941年4月8日	164×116	1点	東北帝大国史研究室の山本柝蔵が大島正隆(東京市目黒区中根町1833)に送った封筒を裏返したもの。	日付は消印による。
大島	I	7-43	[封筒]	[森嘉兵衛]	1942年6月23日	226×132	1点	森嘉兵衛(盛岡市本町)が大島正隆(東北帝大法文学部奥羽史料調査部)宛に送った封筒。赤鉛筆で「講義」と記される(おそらく大島の筆)。	日付は消印による。
大島	I	7-44	[封筒]	—	—	220×154	1点	森永ドロップの袋の転用。大島の筆で「史料編纂所文書十四年春抜粋分」と黒ペンで記される。	
大島	I	7-45	[古文書写断片]	[大島正隆]	—	214×92	1枚	青・赤鉛筆による古文書の謄写的写断片。	
大島	I	7-46	建武中興後ノ政治社会情勢	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼97×148)	11枚	講義の受講ノートか。原稿化されている。	ペン書き。
大島	I	7-47	大類先生 Fichte “ドイツ国民に告ぐ” 研究会	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼97×148)	1枚	標題の研究会のメモ。	ペン書き。
大島	I	7-48	建武中興崩壊後の社会情勢	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼97×148)	1枚	講義の受講ノートか。箇条書き。	ペン書き。
大島	I	7-49	西洋史演習 1940.6.12 河辺君	[大島正隆]	1940年6月12日	メモ用紙(方眼97×148)	1枚	標題のノート。裏面に「今後の整理方針」というメモあり。その題目。1. 秋田文書 2. 旅行新集ノ整理 3. 葛西ノこと 4. 金堀一揆。	ペン書き。
大島	I	7-50	古代における難波の盛衰 高橋君	[大島正隆]	不明	メモ用紙(方眼97×148)	1枚	演習のメモか。高橋富雄氏の報告か。	ペン書き。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-51	「南洋日本町の研究 岩生成一」(小野君)	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	演習のメモか。	ペン書き。
大島	I	7-52	大崎氏系譜考	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 97×148)	表紙共 13枚	奥州探題大崎氏の系図、文書の筆写。	ペン書き。
大島	I	7-53	[年表風メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	8枚	一連のものかどうかは不明。鎖国、キリシタン、日葡関係、マニファクチュアなど。	ペン書き。
大島	I	7-54	伊達族譜 宮城図書館本 巻四ノ中 懸田・留守・葛西・大崎(昭和十六年十二月十九日写)	[大島正隆]	1941年12月19日	手製メモ 帖(方眼 97×148)	表紙共 8枚	標記の史料の筆写。	ペン書き。
大島	I	7-55	十六年一月廿一日 国史演習 古田先生	[大島正隆]	1941年1月21日	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	海運関係の講義受講ノート。	ペン書き。
大島	I	7-56	参考諸家系図二	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	3枚	標題の史料からの抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-57	片倉文書1	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	2枚	天正18年11月7日「蒲生氏郷書状」と同19年4月23日「浅野長吉書状」の筆写。	
大島	I	7-58	「近世初期政権ノ対 皇室関係」1942.5.20	[大島正隆]	1942年5月20日	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	論文読書メモか。	ペン書き。
大島	I	7-59	[論文読書メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	伊東多三郎「近世封建制成立過程の研究」(『社会経済史学』11-7)、有馬成甫「根来寺と鉄炮」。	ペン書き。
大島	I	7-60	近世農村の成立	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	研究構想メモか。裏は参考文献リスト。	ペン書き。
大島	I	7-61	[『海上の神火』関係 メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	2枚	「海上の神火」に関する史料抜き書き(「紅毛雑話」「本朝諸社一覽」)。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	7-62	[日本史関係メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	6枚	一連のものではない。	ペン書き。
大島	I	7-63	系譜 安東南部 八 戸湊熊太郎氏所蔵古 文書	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	標記の史料の筆写。	ペン書き。
大島	I	7-64	[メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	2枚	一連のものではない。西洋哲学、宗教史。1 枚の裏面に「日本近世史」と書かれたメモあ り。	ペン書き、鉛筆書き。
大島	I	7-65	[伊木寿一古文書学 メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	古文書学の受講メモと思われる。	ペン書き。
大島	I	7-66	[講義受講メモ]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	日本史に関する演習のメモか。1939.9.22の 日付が見える。	ペン書き。
大島	I	7-67	[工藤氏関係史料筆 写]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	標題の史料の筆写。	ペン書き。
大島	I	7-68	[大崎氏関係史料抜 書]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	1枚	伊達治家記録等からの大崎氏関係史料抜 き書き。左肩に[大崎]と記す。	ペン書き。
大島	I	7-69	[史料筆写]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (無罫102 ×152)	1枚	承安3年3月日秀衡書下の写。	ペン書き。
大島	I	7-70	[史料筆写]	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼97 ×148)	5枚	一連のものではない。南部家文書、千葉文 書、村田文書、式目追加、谷田寺文書、徳 川実紀等からの抜き書き。	ペン書き。
大島	I	7-71	考古学関係メモ	不明	—	—	4点	大島正隆とは関係しない、戦後の新聞記 事、考古学実測図コピー、考古学遺物カー ド、メモ。	伊東信雄氏のものか。
大島	I	8	安永風土記写	[大島正隆]	不明	手製メモ 帖(方眼 98×154、 無罫102 ×152)	20冊	風土記御用書出(磐井郡・磐井郡2・宮城 郡・玉造郡・伊具郡・江刺郡・刈田郡・牡鹿 郡・加美郡・黒川郡・胆沢郡・遠田郡・柴田 郡・亘理郡・本吉郡・栗原郡・名取郡・気仙 郡)、写本松川村風土記(抄)、風土記改書 出伊具木沼宗畔院。	「贈呈・伊東信雄」・「東北大学記念資 料」の印が押された茶封筒が同封され ている。この封筒に入れられて伊東信 雄氏より東北大学記念資料室へ寄贈さ れた。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	9	柳田講師 日本民俗学 単位レポート「葬送に関する二三の報告」	大島正隆	1938年1月	原稿用紙綴 (B5版)	1綴	大島が法文学部国史科2年時の日本民俗学(集中講義)単位レポート。	講師柳田国男による評価1点およびその複写1点が添付される。柳田の講義は、1937年5月～10月。
大島	I	10-1	牧健二「日本封建制度成立史」ニツイテノ紹介ト批評	[大島正隆]	1936年10月7日	手製メモ帖(無罫 91×142)	表紙共7枚	牧健二「日本封建制度成立史」の要約と批評。	「講義 [朱印]「東北大学記念資料」の封筒入り。表紙に「西洋史演習 猪岡君」とあり。
大島	I	10-2	宮下孝吉「イムンテート」について	[大島正隆]	1936年10月28日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共6枚	社会経済史学第1巻の要旨。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 河辺君」とあり。
大島	I	10-3	カロリング朝の荘園借付	[大島正隆]	1936年11月4日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共5枚	柳春生「フランク王国ニ於ケルカロリング朝の荘園借付ニツイテ」(九州帝大法文論叢20)の要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 柳春生氏論文について」とあり。
大島	I	10-4	フランス革命 バックス著	[大島正隆]	1936年11月5日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共3枚	バックス著『フランス革命』の要約。	封筒同上。表紙に「経済演習 藤田氏」とあり。
大島	I	10-5	Vinogradoff: Foundation of Society (Origin of Feudalism) Chap X X	[大島正隆]	1936年11月11日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共6枚	Foundation of Societyの要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 森脇氏」とあり。
大島	I	10-6	Kooperation	[大島正隆]	1936年11月12日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共7枚	「1920年末ノ三民主義ノ国民紛争」の要約	封筒同上。表紙に「経済演習 殷氏」とあり。
大島	I	10-7	後期中世ニ於ケルボヘミアノStände	[大島正隆]	1937年1月27日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共8枚		封筒同上。表紙に「西洋史演習 萩中君」とあり。
大島	I	10-8	矢口孝次郎「マグナカルタ研究序説」紹介	[大島正隆]	1937年2月17日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共6枚	矢口孝次郎「マグナカルタ研究序説」の要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 社会経済史学 六一七・八 小池君」とあり。
大島	I	10-9	カルメット「ルフンエテフォルダール」の紹介	[大島正隆]	1937年9月22日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共10枚	カルメット「ルフンエテフォルダール」の要約	封筒同上。表紙に「大類教授」とあり。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	10-10	Die Hufe in der Thüringisch-hessischen Agrarverfassung der Karolingerzeit von Friedrich Lütge Schmollers Jahrbuch 紹介	[大島正隆]	1937年10月5日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共3枚	Die Hufe in der Thüringisch-hessischen Agrarverfassung der Karolingerzeit von Friedrich Lütge Schmollers Jahrbuch の要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 萩中氏」とあり。
大島	I	10-11	移動時代フランクニ於ケル土地制度ノ発展 船越康寿	[大島正隆]	1937年10月5日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共3枚	「移動時代ノフランク族ニ於ケル土地制度ノ発達」の要約。	封筒同上。表紙に「史学研究八ノニ 祇園寺氏紹介」とあり。
大島	I	10-12	演習 河辺君	[大島正隆]	1937年10月13日	ノート (210×164)	1枚	大類教授の西洋史演習に際し記されたノート。ペン書き。「萩中三雄君出征応召ノ日」のメモ書きあり。	民間伝承の会の封筒(I-10-30)に入る。
大島	I	10-13	Latham 'The Manor' ノ紹介	[大島正隆]	1937年10月27日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共4枚	Latham 'The Manor' の要約。	「講義 [朱印]「東北大学記念資料」」の封筒入り。表紙に「於西洋史演習 荒木茂君」とあり。
大島	I	10-14	社会経済史学大会講演 昭和十二年	[大島正隆]	1937年10月30日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共8枚	高橋「封建制度下ノフランス農業」、矢口孝次郎「英国封建制度トソノ王政」、上原専禄「フランク王国ニ於ケル恩給制」、西岡虎之助「日本封建制ノ発展ニ於ケル氏族性要項」の報告要旨メモ。	封筒同上。表紙に「祇園寺氏報告 於西洋史研究会」とあり。
大島	I	10-15	Economic of Social Hist of medeaval Europe Henri Perenne ノ紹介	[大島正隆]	1937年11月24日	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共6枚	Economic of Social Hist of medeaval Europe chap3. 都市と田園の諸階層 の要約	封筒同上。表紙に「西洋史演習 高橋君」とあり。
大島	I	10-16	Meinecke Staatsräson のランケ論	[大島正隆]	1939年6月7日	手製メモ帖(方眼 97×149)	表紙共6枚		封筒同上。
大島	I	10-17	関西大学々報 115/116 矢口孝次郎 英国荘園経済組織ノ特質	[大島正隆]	年欠3月6日	メモ用紙 (118×220)	1枚	論文ノート。	ペン書き。用紙をニツ折にして使用。用紙に「学」の刻印あり。民間伝承の会の封筒(I-10-30)に入る。
大島	I	10-18	西洋史演習 6.17 猪岡氏	[大島正隆]	年欠6月17日	メモ用紙 (118×220)	1枚	演習ノート。	ペン書き。用紙をニツ折にして使用。用紙に「学」の刻印あり。日付は6.13を6.17に訂正。封筒同上。
大島	I	10-19	西洋史演習 佐藤氏 6.24	[大島正隆]	年欠6月24日	メモ用紙 (118×220)	1枚	演習ノート。報告されたのは、CalmetteのLa Socie'te' fe'odale,1932。末尾に「日本ニモコノ封建時代ノ民間ノ自衛自治組織として Associationが出来た」という大島の感想らしき書き入れがある。	ペン書き。用紙をニツ折にして使用。用紙に「学」の刻印あり。封筒同上。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	10-20	「中世独乙村落ニ於ケル土地所有ノ關係」村松恒一郎 商科大学年報 村岡氏 10/6	[大島正隆]	年欠10月6日	メモ用紙 (118×220)	1枚	演習ノート。	ペン書き。用紙をニツ折にして使用。用紙に「学」の刻印あり。封筒同上。
大島	I	10-21	Maitland 'Domesdaybook of Beyone' 中ノSOKEに関する部分紹介	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共4枚		「講義 [朱印]「東北大学記念資料」」の封筒入り。表紙に「西洋史演習 田澤君」とあり。
大島	I	10-22	平塚講師「エルサレム封建王国」	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共3枚	Feudal monarchy in the Latin Kingdom of Jerusalem 1000 to 1291の要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習」とあり。
大島	I	10-23	中世荘園内に於ける土地配分形態 西岡虎之助	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共10枚	西岡虎之助「中世荘園内に於ける土地配分形態」の要約。	封筒同上。表紙に「史苑十ノ四 荒木氏紹介」とあり。
大島	I	10-24	ドブシユ 'Lehnrecht & Staatsgewalt in Mitalter'	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(無罫 91×143)	表紙共5枚	ドブシユ 'Lehnrecht unt Staatsgewalt im Mittelalter'の要約。	封筒同上。表紙に「西洋史演習 祇園寺氏」とあり。
大島	I	10-25	大類先生演習 英国封建制度の成立過程 矢口孝次郎 小池君	[大島正隆]	不明	ノート (210×164)	1枚	大類教授の西洋史演習に際し記されたノート。ペン書き。「英国封建制度・・・」は矢口執筆の論文名。小池が報告者。	民間伝承の会の封筒(I-10-30)に入る。
大島	I	10-26	Mazzini(国家)政治思想 西洋史演習 大類先生	[大島正隆]	不明	メモ用紙 (方眼147×97)	1枚	演習ノート。	ペン書き。封筒同上。
大島	I	10-27	[西田直二郎氏古代史講義]	[大島正隆]	1941年11月	手製ノート(172×250)	8枚	奥羽史料調査部原稿用紙をニツ折にした手製ノート。表紙に赤字で「西田直二郎氏古代史講義」。また、「島根県能美郡赤居村大字下十字畑九六 山本柝蔵」と朱書。表紙裏には大島の手で「山本助手不在中事務備忘」が記されている(7月10日～8月15日)。山本が母親危篤のため仙台を離れていたことがわかる。講義ノートは原稿用紙裏面に及ぶものもあり。	西田直二郎(京都帝大文学部教授)は東北帝大における講義の直後の1941年11月7日に国史学会(仙台)で報告を行っている(『文化』9-1彙報)。作成年代はそれによる。ペン書き。封筒同上。
大島	I	10-28	第十一回史学大会講演筆記	[大島正隆]	1939年5月28日	手製メモ帖(方眼 97×149)	表紙共10枚	「大戦ポスターに寄せて」大類伸、「我が国に襲来せる元軍の一部について」曾我部静雄、「中世国家について」鈴木成高の報告内容。	「講義 [朱印]「東北大学記念資料」」の封筒入り。
大島	I	10-29	社会経済史学会第十一回大会メモ	[大島正隆]	1941年11月・2日	手製メモ帖(方眼 97×149)	表紙共8枚	「生糸改会社」羽原又吉ほか報告要旨。	封筒同上。表紙に「於早大」とあり。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	10-30	[封筒]	—	—	封筒(240×142)	1点	民間伝承の会から大島正隆(仙台市北二番丁 菅方)へ送られた封筒。「大類先生『封建制度』」と大島のメモ書あり。「演習」とマジック書き(最近のものか)。	
大島	I	11-1	黒正厳 経済史論考 第三編岡山藩農政史の研究 開墾新田 社倉 畝麦法	[大島正隆]	1936年11月6日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共8枚	標題の著書についてのノート。	ペン書き。緑で書き込みあり。東北学院大学東北文化研究所の封筒に入っている(「東北大学記念資料」の印あり)。以下、I-11-18まで同じ封筒に入っている。
大島	I	11-2	佐野学 日本経済史概論 第四編近世日本の経済生活 第一章近世日本の社会 第二章農業村落及び農民階級	[大島正隆]	1936年11月6日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共14枚	標題の著書についてのノート。	ペン書き。緑で書き込みあり。
大島	I	11-3	小野武夫 日本村落史概説 近世農村に対する部分的覚書	[大島正隆]	1936年11月7日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共5枚	標題の著書についてのノート。	ペン書き。緑で書き込みあり。
大島	I	11-4	本庄栄次郎 黒正厳 日本経済史 第六編 第二章 集権的封建時代の農業 231—270頁	[大島正隆]	1936年11月8日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共17枚	標題の著書についてのノート。	ペン書き。緑で書き込みあり。
大島	I	11-5	佐野 日本経済史概論 第四編近世日本の経済生活 第三章 工業及びその組織 一八三—二〇〇ページ	[大島正隆]	1936年11月13日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共9枚	標題の著書についてのノート。佐野は佐野学。	ペン書き。緑で書き込みあり。
大島	I	11-6	土屋喬雄 日本社会史 岩波講座教育科学	[大島正隆]	1936年11月28日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共16枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-7	中世末期ニ於ケル村落社会 武家時代社会ノ研究 牧野信之助	[大島正隆]	1936年11月29日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共11枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-8	近世初期ニ於ケル農民ノ統制 史学雑誌 41/1・2・3 中村吉治氏	[大島正隆]	1936年11月29日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共13枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-9	封戸制ノ変質ト庄園ノ発達トノ関係(牧健二)	[大島正隆]	1936年11月29日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共6枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	11-10	武家発達ノ経済的基礎 歴史教育九ノ六 西岡虎之助	[大島正隆]	1936年11月30日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共12枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-11	莊園制ノ崩壊ト大名領ノ成立 歴史教育九ノ七 西岡虎之助	[大島正隆]	1936年11月30日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共13枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-12	近世初頭ノ農村ニ関スルー考究 歴史と地理六十一ノ五・六 児玉幸多	[大島正隆]	1936年11月30日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共13枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。緑で書き込みあり。
大島	I	11-13	地頭領家ノ下地分割 歴史地理六二ノ二 平山行三	[大島正隆]	1936年12月1日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共7枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。
大島	I	11-14	莊園制ノ発達 岩波講座日本歴史 西岡虎之助	[大島正隆]	1936年12月5日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共17枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。赤で書き込みあり。
大島	I	11-15	莊園制の崩壊 岩波講座日本歴史 牧野信之助	[大島正隆]	1936年12月8日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共17枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。黒鉛筆・赤で書き込みあり。
大島	I	11-16	庄園制度崩壊の一例としての越前国河口坪江庄の研究 史林第五卷ノ三・四(大正9) 牧野信之助	[大島正隆]	1937年4月27日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共7枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。
大島	I	11-17	武家発生史上に於ける在庁と留守所の研究 史学雑誌四十八ノ六 竹内理三	[大島正隆]	1937年6月23日	手製メモ帖(無罫 90×142)	表紙共10枚	標題の論文についてのノート。	ペン書き。
大島	I	11-18	ケムペル日本志附録「鎖国論」	[大島正隆]	1942年5月27日	手製メモ帖(方眼 97×148)	表紙共5枚	標題の著書(原書か)についてのノート。	ペン書き。
大島	I	12	奥州留守氏考	大島正隆	(1941年3月25日カ)	原稿用紙綴(B5版)	1綴	論文原稿。	1938年『仙台郷土研究』第13巻第4号で公表された同名の論文とは異内容、奥羽史料調査部の原稿用紙に記される。昭和十六・三・二五 水沢国民学校「水沢市坂本一蔵氏」と鉛筆書きされる。
大島	I	13	伊達政宗の小田原参陣	大島正隆	(不明)	原稿用紙綴(B5版)	1綴39枚	大島の生前には未発表の論文(『東北中世史の旅立ち』に採録)の原稿。	最終頁の破損が目立つ。
大島	I	14	安倍姓湊氏系譜資料并私考	大島正隆	1940年6月26日	わら半紙綴(B4版)ガリ版刷	1綴表紙共4枚	研究報告レジュメか。	表紙はペン書き、ペン書きによる補記が多い。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	15-1	[大島正隆宛葉書]	山本柗蔵	1937年7月14日	絵葉書	1枚	東京の実家に滞在中の大島へ、照会の件につき仙台より返答。	国史研究室副手山本柗蔵発。
大島	I	15-2	[大島正隆宛葉書]	室野金次郎	1940年7月6日	官製葉書 140×90	1枚	横須賀海軍砲術学校・室野金次郎(海軍軍医中尉)発。	室野については、石原謙『生命の言』参照。
大島	I	15-3	[大島正隆宛葉書]	久芳健夫	1941年9月7日	官製葉書 140×90	1枚	久芳は大島の実弟。「東京都目黒区中根町180 大島方」より発信。東北帝大法文学部国史研究室大島宛。	
大島	I	15-4	[大島正隆宛葉書]	豊沢武	1942年7月15日	絵葉書 140×90	1枚	豊沢は秋田市在住。大島「北奥大名領成立過程の一断面」送付への礼状か。東北帝大法文学部国史研究室大島宛。	
大島	I	15-5	[葉書]	—	—	絵葉書 140×90	1枚		未使用。
大島	I	16-1	別刷「長者ヶ原雑記」	大島正隆	1937年12月	別刷(A5版)	2部	『仙台郷土研究』第7巻第12号	1部は謹呈辞あり(「古田先生」宛)。文化庁の封筒(書入「大島正隆君論文」)に入っている。以下、I-16-10まで同じ封筒に入る。
大島	I	16-2	『仙台郷土研究』第7巻第12号	仙台郷土研究会	1937年12月	冊子(A5版)	1冊	大島正隆「長者ヶ原雑記」ほか、全23+3頁。	巻末に第7巻総目次あり。
大島	I	16-3	別刷「奥羽に於ける近世大名領成立の一過程」	大島正隆	1941年7月	別刷(A5版)	2部	文化第8巻第2号に掲載。	1部は謹呈辞あり(「古田先生」宛)。
大島	I	16-4	別刷「北奥大名領成立過程の一断面」	大島正隆	1942年5月	別刷(A5版)	1冊	喜田博士追悼記念国史論集に掲載。	
大島	I	16-5	『郷土(ふるさと)』第4巻第5号	川合勇太郎	1939年6月	冊子(B5版)	1冊	大島正隆「『檜山御前』に就いて」ほか。	訂正の加筆あり。
大島	I	16-6	コピー「海上の神火」	大島正隆	1939年7月	コピー用紙綴(A4版)	7枚	文化第6巻第7号に掲載。	東北帝国大学図書館蔵書のコピー。
大島	I	16-7	コピー『文化』第9巻第9号	東北帝国大学文学部編集	1942年9月	コピー(A5版)	1冊	大島正隆「鎌倉時代の奥州留守氏」ほか。	
大島	I	16-8	『学芸手帖』(民間伝承改題)第21巻第4号	民間伝承編集部	1957年5月	冊子(A5版)	1冊	三笠宮崇仁「ノアの洪水」ほか。	
大島	I	16-9	コピー「中世の安東(安藤)秋田氏」	小林清治		別刷(A5版)	1冊		ボールペンで「三春町歴史民俗資料館安東氏秋田氏展図録」と記される。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	I	16-10	[安倍姓湊氏系譜資料并私考]	[大島正隆]	(1940年6月26日カ)	わら半紙(B4版)ガリ版刷	2枚		「安倍姓湊氏系譜資料并私考」(大島 I-14)1・2枚目と同じ。
大島	I	17	留守家旧臣名簿	[樋口正文カ]	不明	B5版 ガリ版刷	1冊	石原家所蔵「留守家臥牛城及旧臣名簿」の「旧臣名簿」部分を採録したもの。	ペンで「昭和廿七年七月六日水沢にて高橋清作氏より受贈」と記される 樋口清文による「解説」が付される。
大島	I	18-1	歌集 上総の海 大島正隆遺稿	大島正隆	(1983年)	冊子(222×154)	1冊	1941～43年の短歌や書簡を集め、1983年2月11日の偲ぶ会で大島家から配布されたもの。	表紙裏に写真貼付、18-2～5が挟み込まれていた。
大島	I	18-2	[杉浦源市書簡]	[杉浦]源市	(年未詳)8月28日	便箋(178×224)	2枚	聞き取り調査の礼(菓子)受取および照会のあった祭礼日時の回答、大島正隆宛て。	封筒など無。
大島	I	18-3	「大島正隆氏記念会」(『尚志会報』18号掲載)	横田敬一	1983年3月	コピー(B5版)	1枚	記念会の概要や大島の略歴など。	
大島	I	18-4	[大島正隆記念会案内葉書]	発起人5名	1983年1月8日	葉書	1枚	伊東信雄宛。	
大島	I	18-5	[集合写真]	[不明]	1929年2月	写真(82×116)	1枚	裏に「1年生の時」と大島や同級生7名の氏名の書き入れあり。	
大島	I	18-6	[集合写真]	[不明]	(不明)	写真(82×116)	1枚	裏に「忠愛之友倶楽部」の書き入れあり。	
大島	I	19	『東北中世史の旅立ち』(そしえて)	大島正隆	1987年	書籍(A5版)	1冊	大島の遺稿集。	全326頁。
大島	I	20	[地図]	[不明]	(不明)	地図	1点	宮城・福島・山形の20万分の1地形図。	破損大「二高明善寮坂牧」の書込みあり 史料裏面に「東大嶺よりの東望」の図が描き込まれる。
大島	II	1	[大島正隆書簡]	大島正隆	1933年12月5日	封書	1通(3枚)	大島が獄中から母・今子に送った書簡。	封筒(表書:東京市目黒区中根町一八三三番地 大島今子様。差出住所:仙台市片平四〇番地)。大島家による傍線あり。
大島	II	2	[大島正隆書簡]	大島正隆	1933年12月13日	封書	1通(2枚)	大島が獄中から母・今子に送った書簡。	封筒の表書・差出住所は同上。大島家による傍線あり。
大島	II	3	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1933年]12月20日	封書	1通(3枚)	大島が獄中から母・今子に送った書簡。	封筒の表書・差出住所は同上。大島家による傍線あり。
大島	II	4	[大島正隆書簡]	大島正隆	1933年12月28日	封書	1通(3枚)	大島が獄中から母・今子に送った書簡。	封筒の表書・差出住所は同上。大島家による傍線あり。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	II	5	[大島正隆書簡写]	大島正隆	[1936年]4月28日	A4コピー用紙	2枚	父・大島正満宛。東北帝大入学直後の状況報告。	近年の茶封筒(表書:父上様 東北大入学直後)に封入。「昭和十二年四月東北大入学直後」というメモ書きは「昭和十一年」の誤り。
大島	II	6	[大島正隆書簡]	大島正隆	1937年1月16日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	正泰は正満・今子夫妻の五男。宛名住所は「東京市目黒区中根町一八三三」。福島で投函したもの。
大島	II	7	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年8月1日	官製葉書	1枚	弟・正明宛。隠岐調査の際、執筆・投函のものと思われる。	正明は正満・今子夫妻の六男。宛名住所は同上。
大島	II	8	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年9月19日	官製葉書	1枚	弟・正明宛。	宛名住所は同上。
大島	II	9	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年10月19日	絵葉書	1枚	弟・寛宛。八甲田山・十和田湖からの通信。3枚続きの2枚目(1枚目は不明)。	寛は正満・今子夫妻の四男。宛名住所は同上。絵葉書「雪の猿倉より高田大岳を望む」。
大島	II	10	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年10月19日	絵葉書	1枚	弟・寛宛。八甲田山・十和田湖からの通信。3枚続きの3枚目(1枚目は不明)。	宛名住所は同上。絵葉書「猿倉道の放牧場」。
大島	II	11	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年10月20日	絵葉書	1枚	弟・正泰宛。北海道旅行の報告。平泉にて投函。	宛名住所は同上。盛岡市内から雪の岩手山を撮影した絵葉書。欠損あり。
大島	II	12	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年6月5日	絵葉書	1枚	弟・正泰宛。八郎潟・大館・秋田・津軽等への旅行中の通信。津軽で執筆。	宛名住所は同上。絵葉書「(秋田県十和田湖) 鎧嶋と兜嶋」。
大島	II	13	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年6月22日	絵葉書	1枚	弟・正泰宛。山形の図書館での古文書調査等を報告。	正泰は正満・今子夫妻の五男。宛名住所は同上。
大島	II	14	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年10月23日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。秋休みの報告。新響(現N響)のプログラムについて問い合わせ。また、古文書展(秋田家架蔵品展観のこと)の骨休めにヒュッテ暮らしと記す。数日中に庄内・秋田方面出張とも。	宛名住所は同上。
大島	II	15	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年8月25日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。弟・正明の来仙を告げる。正明も執筆。	宛名住所は同上。
大島	II	16	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年9月12日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	宛名住所は同上。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	II	17	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年10月8日	絵葉書 (帝室博物館蔵日月屏風)	1枚	弟・正泰宛。山形の情報を伝える。去年の11月2日に鶴岡にいたと記す。	宛名住所は同上。
大島	II	18	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1941年秋]	封書	1通	弟・正泰宛。脳溢血で倒れた母・今子と大島家に対する注意事項を書き送ったもの。	宛名住所は同上。原稿用紙(奥羽史料調査部)、表裏使用で5枚(9頁)。
大島	II	19	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年12月4日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。大学における徴兵検査のことに触れる。母の病状を気遣う。	宛名住所は同上。
大島	II	20	[大島正隆書簡]	大島正隆	不明	封書	1通	弟・正泰宛。ピアノ独奏会を前に心構えを述べる。	宛名住所は同上。年月日がないが、実家番地表記に基づきしばらくここに置く。原稿用紙(東京文房堂製)1枚。
大島	II	21	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年2月16日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	宛名住所は「東京市目黒区中根町一八〇番地」。差出住所は「千葉県勝浦町新官 押塚方」。
大島	II	22	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年3月14日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	宛名住所・差出住所は同上。
大島	II	23	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年5月13日	封緘葉書 (速達)	1枚	弟・正泰宛。仕送りの無心。石原謙を囲んだ会が、茨城県関本で開かれた様子を報告する。大学における研究、東北学院での講義にも言及。	宛名住所は同上。差出住所は東北帝大 国史研究室。
大島	II	24	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年9月3日	封緘葉書 (速達)	1枚	弟・正泰宛。仕送りの無心。二高の非常勤講師(伊東信雄氏の代理力)を健康に自信がなく断ったこと、将来のことに言及。	宛名住所は同上。差出住所は「仙台市北三番丁一六」。
大島	II	25	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年4月6日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	宛名住所・差出住所は同上。
大島	II	26	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]5月12日	絵葉書 (京城・丁子屋デパート)	1枚	母・今子宛。京城からの通信。	宛名住所は同上。差出は「京城旭町不知火旅館」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	II	27	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]5月12日	絵葉書 (京城経学院文廟門)	1枚	弟・正泰宛。京城からの通信。博物館の朝鮮王朝時代の遺品を絶賛。	宛名住所・差出住所は同上。
大島	II	28	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]5月17日	満洲国官製葉書	1枚	弟・正泰宛。奉天の状況報告。旅順への旅行についても言及。	宛名住所は同上。発信は奉天市ホービルホテル。
大島	II	29	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月4日	官製葉書	1枚	母・今子宛。「余波」という題の短歌四首。	宛名住所は「東京都目黒区中根町一八〇番地」。発信は勝浦町新官。
大島	II	30	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月10日	官製葉書	1枚	母・今子宛。体調について、夏から続いた消化不良から脱却した、という記述あり。	宛名住所・発信は同上。
大島	II	31	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月16日	官製葉書	1枚	父・正満宛。短歌3首。「能ふ限りの静養を続け」ているとの記述あり。	宛名住所・発信は同上。
大島	II	32	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月20日	官製葉書	1枚	父・正満、母・今子宛。短歌6首。東北の秋を懐かしみつつも、「今の自分の耐ふるところに非ざる」とする。	宛名住所・発信は同上。
大島	II	33	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]10月22日	官製葉書	1枚	父・正満、母・今子宛。短歌5首。	宛名住所は同上。発信は勝浦町新官押塚方。
大島	II	34	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年10月28日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。戦時下の勝浦の状況など。	宛名住所・発信は勝浦町新官。
大島	II	35	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月25日	官製葉書	1枚	弟・正泰宛。	宛名住所・発信は同上。
大島	II	36	[大島正隆写真]	—	1928年～1937年	—	3枚	大島正隆出獄時、大学入学時、忠愛之友倶楽部集合写真	
大島	II	37	朝鮮・満州旅行記メモ	大島正隆	1943年	1943年版日独手帳(130×90)	1冊(記入部分のみ66枚)	5月5日から5月22日までの朝鮮・満州旅行日記。手帳末尾メモ欄に「上総の海(昭和十八年の秋から)」と題する和歌110首(9月24日から12月7日まで)を記す。	万年筆による記載のほか、鉛筆による書き込みもあり。写真3枚添付(2枚は大島正隆、1枚は風景)。
大島	II	38	渤海国上京龍泉府宮城祉図	[大島正隆]	不明	薄葉紙(281×259)	1枚	手書きによる渤海国上京龍泉府宮城祉の絵図。縮尺3000分の1。一部赤・薄黄緑で彩色。	1943年5月の朝鮮・満州旅行と関連する。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	II	39	渤海国上京龍泉府社全図	[大島正隆]	不明	薄葉紙(506×558)	1枚	手書きによる渤海国上京龍泉府社の絵図。縮尺10000分の1。一部赤・薄黄緑で彩色。	同上。
大島	II	40	高句麗丸都城付近地形図	[大島正隆]	不明	薄葉紙(414×560)	1枚	手書きによる高句麗都城近辺の地形図。一部青・赤で彩色、赤で文字を記す。	同上。
大島	II	41	葡萄園の歌・イザヤ書五章一一地一七・1937.9.12 於丸ノ内塚本先生	[大島正隆]	1937年9月12日	手製メモ帖(無罫90×142)	表紙共6枚	塚本虎二の説教に関するメモ。	6枚目の糊が剥がれ、本体より脱落。表紙に鉛筆書きで「日本の大陸侵略が神の審判を招く明確な批判」という記載あり。
大島	II	42	Eros und Agape gestaltwandlungen der christlichen Liebe Von Anders Nygren (1930))	[大島正隆]	不明	手製メモ帖(方眼97×148)	表紙共11枚	『エロスとアガペー』に関するメモ。	
大島	II	43	[ヨハネ伝の翻訳ノート]	[大島正隆]	1935～1937年(力)	東京伊東屋製ノート(204×128)	1冊(記入部分のみ57枚)	新約聖書ヨハネ伝の翻訳ノート。「ラザロの復活」の途中まで。右ページに訳文、左ページにギリシア語本文を記し、対訳形式をとる。	表紙見返しに鉛筆書きで「(昭和10～12年代と推定 大島智夫)」の記載あり。その他本文各所に鉛筆による書き込みあり。
大島	II	44	東北大学YMCA日誌コピー	キリスト教青年会	1937年～1944年	A4版2点、B4版1点	3綴	大島正隆氏に関連する記事の部分を抜粋。	
大島	II	45	東北帝国大学基督教青年会会報第4号	キリスト教青年会	1936年	A4版	1点	全6ページのうち3ページ目に大島正隆「聖書研究会」を掲載。	
大島	II	46	東北帝国大学基督教青年会会報第7号	キリスト教青年会	1939年	A5版	1冊	全28ページのうち第16ページに大島正隆「聖書研究会」を掲載。	
大島	II	47	あゆみのあと(第4号)	石原聖書研究会	1938年度	A5版	1冊		
大島	II	48	「思い出」(第二高等学校尚志同窓会々報第5号)コピー	高木健次郎	1979年	B5版	1点	大島正隆の二高退学一件に触れる。	
大島	II	49-1	[大島正隆記念会関連資料]	—	1983年	—	一括	記念会の案内葉書2通、出欠葉書53通、関連葉書4通、スナップ写真10枚、出席者一覧等コピー1綴、録音CD1枚。	
大島	II	49-2	寄せ書き(吾等の親しき友大島正隆君を偲ぶ会)	大島正隆君を偲ぶ会	1983年2月11日	色紙(272×242)	1枚	学士会館で行われた大島正隆を偲ぶ会での寄せ書き。	東北大学附属図書館の茶封筒に収納されていた。
大島	II b	1	[集合写真]	—	1929年2月	白黒写真(82×116)	1枚		裏面の書き入れ「昭和四年二月」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	2	[大島今子書簡]	大島今子	[年未詳]8月 10日	官製葉書	1通	正満宛。	宛名住所は「東京市荏原区戸越町二八二」。葉書1銭5厘は明治32年4月1日から昭和12年3月31日まで。
大島	Ⅱ b	3	[大島今子書簡]	大島今子	[1933年夏]28 日	便箋	1通(4 枚)	正満宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	4	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1935年]	便箋	1通(2 枚)	父正満宛。記述から6月末の成立。夏休みの過ごし方について指導を請う内容。翌年春の検定試験対策を念頭に、夏休みは史学研究に集中する希望を述べている。	封筒欠。大島家による書き入れ「昭和10年の手紙と推定」「平信／検定試験受験前の記事」および傍線あり。
大島	Ⅱ b	5	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1936年]5月4 日	便箋	1通(1 枚)	父正満宛。入学関係と思われる手続きの依頼と研究の相談。	封筒欠。大島家による書き入れ「昭和十一年と推定」「専攻の事／方言地図の事(祖父のわざ)」および傍線あり。
大島	Ⅱ b	6	[大島苑子書簡]	大島苑子	1937年3月21 日	官製葉書	1通	正隆宛。	宛名住所「仙台市北二番町六八菅様方」
大島	Ⅱ b	7	[大島今子書簡]	[大島]今子	[1937年]6月 12日	便箋	1通(3 枚)	正隆宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	8	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1937年6月]	封書	1通(3 枚)	父正満宛。出発の二日前に、岩手県での調査について記した内容。4月に石原邸で夫妻を囲み撮影した集合写真を添付。	写真1枚添付。宛名住所は「東京市目黒区中根町一八三三」。大島家による封筒書き入れ「岩手県下閉伊郡調査旅行出発を前に」「昭和12年頃(?)」および本文傍線あり。
大島	Ⅱ b	9	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	1937年9月4日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	10	[大島今子書簡]	[大島]今子	[1937年]	便箋	1通(3 枚)	正隆宛。	封筒欠。大島家による書き入れ「祖父発病の状況」など。
大島	Ⅱ b	11	[大島今子書簡]	大島今子	1938年4月27 日	官製葉書	1通	正隆宛。	
大島	Ⅱ b	12	[桜井一啓書簡]	桜井一啓	1938年5月3日	絵葉書	1通	正隆宛。	裏面は「伊香保 七重の滝」スケッチ画。消印「13. 6. 3」(カ)・「宛名はくはしく門には名札」。2銭切手貼付。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	13	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1938年]6月 24日	封書	1通(原 稿用紙 6枚附 図1枚)	父・正満宛。	切手欠。大島家による封筒書き入れ 「卒論及調査予定」。
大島	Ⅱ b	14	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年7月22 日	官製葉書	1通	母・今子宛。	差出住所「信州軽井沢駅西軽井沢夏季 大学」。消印「国民精神総動員」。
大島	Ⅱ b	15	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	1938年7月29 日	官製葉書	1通	母・今子宛。車中で。	消印「13. 7. 28」
大島	Ⅱ b	16	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	1938年8月1 日	絵葉書	1通	母・今子宛、二枚続きの①。「隠岐西郷に て」。	裏面は「隠岐名所・白島の絶景(一)」写 真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	17	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	1938年8月1 日	絵葉書	1通	母・今子宛、二枚続きの②。「隠岐西郷」よ り。	裏面は「隠岐名所・白島の絶景(二)」写 真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	18	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	[1938年]8月1 日	絵葉書	1通	母・今子宛。「隠岐西郷」より。	裏面は「隠岐名木・玉若酢神社八百杉 と闘牛」写真。切手剥落。
大島	Ⅱ b	19	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年8月9日	官製葉書	1通	母・今子宛。「隠岐島・都万村上那久」から。	
大島	Ⅱ b	20	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年8月11 日	官製葉書	1通	父・正満宛。「隠岐島那久にて」。	
大島	Ⅱ b	21	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年9月20 日	絵葉書	1通	母・今子宛。	裏面は「(盛岡名所)岩手山と菜園方 面」着色写真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	22	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1938年]9月 24日	封書	1通(2 枚)	両親宛。	押葉1点同封。大島家による封筒書き 入れ「九戸旅行記」。
大島	Ⅱ b	23	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年9月28 日	官製葉書	1通	父・正満宛。	
大島	Ⅱ b	24	[大島正満書簡]	[大島正満]	[1938年月未 詳]28日	便箋	1通(2 枚)	正隆宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	25	[大島舜書簡]	[大島]舜	1938年10月13 日	官製葉書	1通	正隆宛。父に代わっての意味で差出は「舜 代筆」。	消印「先づ国債で御奉公」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	26	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1938年]10月18日	官製葉書	1通	父・正満宛。	大島家による書き入れ「北海道旅行のこと」。
大島	Ⅱ b	27	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年10月20日	絵葉書	1通	母・今子宛。	裏に「盛岡の風光 岩手山」の写真、表に平泉風景印。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	28	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年10月20日	絵葉書	1通	弟・寛宛。	裏に「盛岡の風光 開運橋」の写真、表に平泉風景印。2銭切手貼付。一部破損。
大島	Ⅱ b	29	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年10月21日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	30	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1938年]	封書	1通(便箋3枚)	父・正満宛。	切手欠。
大島	Ⅱ b	31	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1938年11月23日	絵葉書	1通	母・今子宛。	裏面に「十和田湖の印象 伝説を秘む 白籠の入り江の静潭」の写真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	32	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1938年11月]	原稿用紙	1通(2枚)	母・今子宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	33	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年12月19日	封書	1通(原稿用紙1枚)	両親宛。	封筒の切手欠。本文朱字書き入れ、封筒茶インク書き入れ「卒論完成の事」などあり。
大島	Ⅱ b	34	[大島正満書簡]	[大島正満]	[1938年]12月22日	便箋	1通(2枚)	正隆宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	35	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年[月未詳]30日	封筒のみ	1点	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	36	[大島正満書簡]	[大島正満]	1939年1月23日	便箋	1通(1枚)	正隆宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	37	[大島今子書簡]	大島[今子]	1939年1月26日	官製葉書	1通	正隆宛。	毛筆書き。
大島	Ⅱ b	38	[大島正隆書簡]	大島正隆	1939年4月24日	封書	1通(罫紙2枚)	両親宛。	奥羽史料調査部の罫紙使用。切手欠。大島家による封筒書き入れ「東北大副手着任報告」など。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	39	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1939年月日未詳]	封書	1通(原稿用紙1枚)	母・今子宛。	4銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	40	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1939年]7月5日	封書	1通(原稿用紙1枚)	両親宛。	切手欠。大島家による封筒書き入れ「商船校の赤の件」。
大島	Ⅱ b	41	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1939年9月4日	官製葉書	1通	父・正満宛。	
大島	Ⅱ b	42	[大島正満書簡]	[大島正満]	[年未詳]9月7日	便箋	1通(2枚)	正隆宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	43	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1939年]10月5日	封書	1通(無罫便箋3枚)	母・今子宛。	切手剥落。
大島	Ⅱ b	44	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1939年12月7日	絵葉書	1通	父・正満宛。	裏面は「湖畔に立つ翠明閣旅館」写真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	45	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	[1940年4月]	封書	1通(便箋5枚)	両親宛。	切手欠。
大島	Ⅱ b	46	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年5月8日	封書	1通(罫紙1枚)	父・正満宛。	奥羽史料調査部の罫紙使用。切手欠。
大島	Ⅱ b	47	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年8月14日	官製葉書	1通	父・正満宛。	消印「胸に愛国手に国債」。
大島	Ⅱ b	48	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年8月17日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	49	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年8月30日	官製葉書	1通	両親宛。	消印「胸に愛国手に国債」。
大島	Ⅱ b	50	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年9月25日	絵葉書	1通	母・今子宛。	裏面は「仙台の印象 芭蕉の辻」写真。2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	51	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年9月30日	封書	1通(2枚)	母・今子宛。	切手欠。大島家による封筒書き入れ「菅家在住」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	52	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1940年]10月 24日	封書	1通(1 枚)	両親宛。	4銭切手貼付(一部破損)。
大島	Ⅱ b	53	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年11月26 日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	54	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年11月28 日	官製葉書	1通	両親宛。	消印「奉祝紀元二千六百年」。
大島	Ⅱ b	55	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1940年12月11 日	官製葉書	1通	父・正満宛。	消印「偲べ戦線求めよ国債」。
大島	Ⅱ b	56	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	[1941年]1月 29日	無罫便箋	1通(2 枚)	母・今子宛。	封筒欠。
大島	Ⅱ b	57	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	[1941年]3月6 日	原稿用紙	1通(1 枚)	両親宛。	用紙を折紙として使用。封筒欠。
大島	Ⅱ b	58	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1941年3月28 日	絵葉書	1通	母・今子宛。盛岡より。	裏面は「盛岡の風光 石割桜」の写真。 2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	59	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年4月29 日	官製葉書	1通	母・今子宛。寄宿舍の部屋の見取り図あり。	消印「兵は戦線我等は国債」。
大島	Ⅱ b	60	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1941年]4月 30日	封書	1通(原 稿用紙 2枚)	母・今子宛。	用紙を折紙として使用。切手欠。大島 家による封筒書き入れ「寛の事」など。
大島	Ⅱ b	61	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1941年]	絵葉書	1通	野尻正英宛。	裏面は「国宝・法隆寺金堂壁画」写真。 2銭切手貼付。
大島	Ⅱ b	62	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年6月8日	封書	1通(原 稿用紙 1枚)	両親宛。	用紙を折紙として使用。4銭切手貼付 (一部破損)。大島家による茶封筒書き 入れ「史学講演に行った記事」。
大島	Ⅱ b	63	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年6月23 日	封書	1通(原 稿用紙 2枚)	両親宛。	用紙を折紙として使用。切手は剥落。 大島家による封筒書き入れ「一身上の 事ノ日常の糧の事ノ大文章」。
大島	Ⅱ b	64	[大島正隆書簡]	[大島正]隆	1941年8月21 日	官製葉書	1通	父・正満宛。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	65	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]5月8日	官製葉書	1通	父・正満宛。	宛先住所「東京市目黒区中根町一八〇」。
大島	Ⅱ b	66	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]5月16日	絵葉書	1通	母・今子宛。新京より。	裏面は「オロチョン族の雑穀容器」写真。3分切手貼付。
大島	Ⅱ b	67	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年5月18日	官製葉書	1通	父・正満宛。旅順より。	
大島	Ⅱ b	68	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年6月20日	官製葉書	1通	母・今子宛。岩手県から。	
大島	Ⅱ b	69	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年7月16日	官製葉書	1通	母・今子宛。	消印「18. 7. 15」
大島	Ⅱ b	70	[大島正隆書簡]	[大島]正隆	[1943年8月]	封書	1通(2枚)	両親宛。	大島家による封筒書き入れ「帰京の智夫に託した就職ばなし二件の報告」(鉛筆書き)。切手当初から無。
大島	Ⅱ b	71	[大島正隆書簡]	大島正隆・正泰	1943年8月16日	官製葉書	1通	母・今子宛。十和田湖から。	
大島	Ⅱ b	72	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月15日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	73	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]9月16日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	74	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]9月18日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	75	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月23日	官製葉書	1通	両親宛。	鉛筆書き。
大島	Ⅱ b	76	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月25日	官製葉書	1通	母・今子宛。	鉛筆書き。
大島	Ⅱ b	77	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月25日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	78	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月30日	官製葉書	1通	弟・久芳健夫宛。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	79	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月1日	官製葉書	1通	母・今子宛	
大島	Ⅱ b	80	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月1日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	81	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]10月2日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	82	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月3日	官製葉書	1通	父・正満宛。	
大島	Ⅱ b	83	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月14日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	84	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月16日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	85	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]10月24日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	86	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月31日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	87	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月6日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	88	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月10日	官製葉書	1通	両親宛。	
大島	Ⅱ b	89	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]11月15日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	90	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月18日	官製葉書	1通	母・今子宛。	
大島	Ⅱ b	91	[大島正隆書簡]	大島正隆	[1943年]12月8日	官製葉書	1通	母・今子宛。健夫壮行会の記事。	
大島	Ⅱ b	92	[大島今子書簡]	[大島]今子	[年月未詳]23日	便箋	1通(1枚)	正隆宛。	便箋に少女が蠟燭と動物を持つ絵あり。封筒欠。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	93	大島正隆奥羽山村調査紀行	大島正隆	[1937年]	仮製本	1冊(8枚)	4月28～29日の記録。写真5点貼付。	
大島	Ⅱ b	94	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年10月11日	絵葉書	1通	石原純宛。書き出し「おはがき拝見、東野君のおしらせありがたく思ひます」。	裏面は「弘前公園・岩木山遠望」の写真。
大島	Ⅱ b	95	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年5月10日	絵葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「南鮮の海沿いは明るく美しく、山々も今は八分通りまで緑」。	「慶州博物館」の絵葉書使用。
大島	Ⅱ b	96	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月12日	官製葉書	1通	帝大青年会 尾形義晴／他一同宛。書き出し「離仙の際は色々と恐縮なことばかりでした」。	
大島	Ⅱ b	97	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月16日	官製葉書	1通	帝大青年会諸兄宛。書き出し「如何お過ごしですか。松岡兄もそろそろ立ち寄られる頃かと思ひます」。	
大島	Ⅱ b	98	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月16日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「お願いのこと。重々相済まぬことですが、ひとつだけ頼まれて下さい」。	
大島	Ⅱ b	99	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月24日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「御丁寧なパッキングを解きながら、フト冬営の荷物をほどく味など連想しました」。	鉛筆書き。
大島	Ⅱ b	100	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年9月28日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「おたよりありがとうございます。千葉さん御応召の由おどろきました」。	
大島	Ⅱ b	101	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月4日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純／他御一同宛。書き出し「宮城県冠水…流失…」。	
大島	Ⅱ b	102	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月11日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「度々のおたよりありがたく且つうれしく拝見して居ります」。	
大島	Ⅱ b	103	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月17日	官製葉書	1通	東北帝大青年会諸兄宛。書き出し「南種兄石原兄から最近の舎の御様子」。	
大島	Ⅱ b	104	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月19日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「先日はおたよりありがとうございます。また只今はYMの雑件わざわざ御回送被下」。	

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅱ b	105	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年10月26日	官製葉書	1通	石原純宛。書き出し「東京からのおはがきたゞいま拝見しました。丁度たゞいまは久野さんと重徳兄に手紙を書き」。	
大島	Ⅱ b	106	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月7日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「四つに這い狗のまねしてあまの子は」。	
大島	Ⅱ b	107	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月16日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「珍らしいおはがき有難う御座いましたーヤグーを利かせたのかと思ったです」。	
大島	Ⅱ b	108	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月22日	官製葉書	1通	東北帝大青年会諸兄宛。書き出し「聖研の夜のよせがき嬉しく拝見」。	
大島	Ⅱ b	109	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年11月30日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「今日は仙台に先生御到着の筈の日ですね」。	
大島	Ⅱ b	110	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年12月8日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「おたよりありがとうございました。「ニコデモ」は同心町のお宅でのヨハネ伝講義で」。	
大島	Ⅱ b	111	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年12月21日	官製葉書	1通	帝大青年会 石原純宛。書き出し「御近況のおたより嬉しく拝読しました。本間兄も御帰仙の由」。	
大島	Ⅱ b	112	聖書研究会報告	[大島正隆]	[年月日未詳]	原稿用紙	5枚分		原稿用紙2枚分は半裁状態、1枚は他より一回り小さいサイズ。
大島	Ⅲ	1-1	採集手帖(山村) 山形県西置賜郡北小国・小国本・南小国村	大島正隆	1936年夏以降	手帖コピーの綴り(B5版109枚)	1冊	1936年夏の2週間(第1回6日間、第2回8日間)の民俗採集記録。	市販の『採集手帖』(東京:民間伝承の会、1936年4月15日発行)に記入したもののコピー。 Ⅲ-1は成城大学民俗学研究所より寄贈、1989年4月3日受入。
大島	Ⅲ	1-2	採集手帖(沿海地方用) 島根県隠岐郡都萬村	大島正隆	1938年8月18日以降	手帖コピーの綴り(B5版121枚)	1冊	1938年7月29日から同年8月18日までの民俗採集記録。	市販の『採集手帖(沿海地方用)』(東京:民間伝承の会、1937年11月25日発行)に記入したもののコピー。
大島	Ⅲ	1-3	採集手帖(沿海地方用) 岩手県九戸郡宇部村	大島正隆	1938年9月29日	手帖コピーの綴り(B5版110枚)	1冊	1938年9月27日から同年同月29日までの民俗採集記録。	上記と同じく『採集手帖(沿海地方用)』に記入したもののコピー。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	Ⅲ	2	仙台農村の成立展開過程	大島正隆	1938年12月20日	原稿用紙(B4判コピー用紙)	1冊	大島の卒業論文のコピー。	入間田宣夫氏寄贈(原本は東北大学附属図書館所蔵)。
大島	Ⅲ	3-1	大石直正「大島正隆の民俗学—『東北中世史の旅立ち』補遺—」別刷	大石直正	1987年8月発行	A5版15頁分	1冊	大石直正「大島正隆の民俗学—『東北中世史の旅立ち』補遺—」『国史談話会雑誌』第28号(1987年8月)56-70頁、別刷。	
大島	Ⅲ	3-2	石井進「(紹介)大島正隆著『東北中世史の旅立ち』」コピー	石井進	1987年12月20日発行	B5版表紙とも3枚を二つ折りにしホチキス止め	1点	石井進「(新刊紹介)大島正隆著『東北中世史の旅立ち』」『史学雑誌』第96編第12号(1987年12月20日発行)1943-45頁のコピー。	
大島	Ⅲ	4	わが舎の生活の記録(XII) 昭和15年6月12日より 至16年3月21日 わが舎の生活 XIX 自昭和18年9月15日 至昭和19年4月14日	寮生多数	1941年3月21日/1944年4月14日	A5版ノートの部分コピー(B4版、XII・XIXの表紙を並べコピー、中身はXIIが3枚、XIXが4枚)	2点	東北帝大基督教青年会館寮日誌から、大島正隆に関する記述のコピー。	大島正隆に関する記述部分に下線が引かれている。大島永眠の電報(昭和19年1月13日消印)および石館敬三による所感(同日・翌日付)を含む。現物は、YMCA寮(市内上杉)にあり。
大島	Ⅲ	5	[書簡写]	-	1988年9月5日	コピー用紙綴(A4版)	1綴	大島関係史料寄贈に関する大石直正(東北学院大学教授)宛大島智夫(大島遺族代表)差出葉書(昭和63年9月5日消印)、および「三吉さんの地図」寄贈に関する入間田宣夫(東北大学教授)宛葛西森夫(東北大学医学部名誉教授)差出書簡(9月5日付)のコピー。	寄贈史料受入台帳によれば葛西森夫氏寄贈史料(「大島正隆氏所用地図1/20万 仙台」)の受入は1988年9月14日。
大島	Ⅲ	6	[平山敏治郎宛大島正隆書簡写]	大島正隆	1936年9月28日~1940年12月2日	封書	6通		原本は成城大学民俗学研究所所蔵。2011年12月、寄贈される。画像CD-R1枚添付。
大島	Ⅲ	7	[柳田國男宛大島正隆書簡写]	大島正隆	1939年8月25日	絵葉書	1通	日本野鳥の会の創立者の中西悟堂(柳田とも親交あり)の著書により多くの小鳥達を知ったことなど。裏面は岬々温泉全景の写真。	原本は成城大学民俗学研究所所蔵(2011年12月、同所の茂木明子氏を通じ寄贈される)。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	IV	1	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年7月3日	封書	1通(原稿用紙4枚)	大島から森嘉兵衛への最初の書簡。卒論の構想を述べ、面会を請う。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「岩手県盛岡市県師範学校内」、差出住所は「東京市目黒区中根町一八三三番地」。古田良一・田中館秀三の大島を紹介する旨を記した名刺が附属する。
大島	IV	2	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年7月7日	封書	1通(原稿用紙2枚)	森からの来信への返礼。岩手県海岸部調査日程について告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所・差出住所は同上。原稿用紙は東京文房堂製。
大島	IV	3	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年9月29日	封書	1通(4枚)	森宅訪問への謝礼および調査についての報告。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「気仙 越喜来村」。
大島	IV	4	[大島正隆書簡]	大島正隆	1938年11月9日	封書	1通(3枚)	森宅訪問への謝礼。借用した豊間根家文書の返却についての連絡、マタギ関係史料の提供。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「仙台市北三番丁六八 菅方」。マタギ関係史料の摘記あり。原稿用紙2枚と半紙1枚。
大島	IV	5	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年6月12日	封書	1通(2枚)	「忘れ物」送付への謝礼。森『陸奥産金の沿革』の読後感を記し、文禄金堀一揆の研究を行いたい旨告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七三番地」、差出住所は「東北帝国大学法文学部内 奥羽史料調査部」。奥羽史料調査部用箋使用。
大島	IV	6	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年7月12日	官製葉書	1枚	北大北方文化研究所調査報告所収のアイヌ熊祭、鯨漁に関する報告の所感を述べる。また、10月中旬の秋田家寄託品展覧の準備について言及。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七三」、差出住所は「仙台市東北帝大 奥羽史料調査部」。
大島	IV	7	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年10月15日	官製葉書	1枚	東北帝大史学会大会への来会謝礼。鳥羽正雄の講演について感想を述べる。秋田図書館の「院内銀山記」「院内銀山覚書」について情報提供。月末に東大史料編纂所へ赴くという。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町」、差出住所は「東北帝国大学法文学部内 奥羽史料調査部」。
大島	IV	8	[大島正隆書簡]	大島正隆	1940年10月29日	官製葉書	1枚	秋田図書館で披見した「院内銀山記」の摘記。明日から庄内地方、東大史料編纂所へ向かうという。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市岩手師範学校」、差出住所は「於秋田県」。
大島	IV	9	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年4月4日	封書	1通(2枚)	森家訪問への謝礼。吉里吉里前川文書、留守文書、斯波文書に言及。宮崎文書中の曾我氏関係文書に関心を引かれたこと、および山本某氏所蔵葛西系図についての所感を述べる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東京都目黒区中根町一八三三番地」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	IV	10	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年4月21日	官製葉書	1枚	母の病状回復、東大史料編纂所で宮崎求馬文書影写本を披見したことなどを告げる。田中(喜多美)から依頼された鬼柳文書校訂を開始するという。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北大法文学部国史研究室」。
大島	IV	11	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年5月	絵葉書	1枚	手術後の森を見舞う。「留守家文書」の借用手続きについて記す。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七二」、差出住所は「仙台」。裏面は「金沢文庫三代 金沢修理大夫貞顕朝臣」肖像画写真。
大島	IV	12	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年5月9日	官製葉書	1枚	留守家文書2冊を送付したと告げる。鬼柳文書校訂終了という。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北大学奥羽史料調査部」。
大島	IV	13	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年6月27日	絵葉書	1枚	森からの来信への返礼。大槌支配録を古田良一へ届けたこと、留守家文書も二高に届けることを告げる。別便にて送付した「未定稿のままの雑篇」に対する教示を請う。留守氏研究の進捗状況についても言及。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七三」、差出住所は「仙台市東北帝大奥羽史料調査部」。裏面は「御物 伝海北友松筆 松原図屏風」の写真。切手ハガレ。
大島	IV	14	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年12月1日	封書	1通(3枚)	森の体調を気遣う。社会経済史学会の感想。仙台での部会への参加を要請。送付した留守氏関係の論文草稿に対する森の助言に礼を述べ、留守氏の系譜についての見解を記す。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「仙台市片平丁東北帝大奥羽史料調査部」。封筒、東北帝国大学用箋使用。
大島	IV	15	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年12月15日	官製葉書	1枚	森に奥羽史料調査部備付の新渡戸文書を貸与できること、大島が借用中の大槌代官記録を近く返却することなど。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北帝国大学法文学部奥羽史料調査部」。
大島	IV	16	[大島正隆書簡]	大島正隆	1941年12月17日	官製葉書	1枚	新渡戸文書、大槌(代官)記録の送付と「岩手県郷土誌」の落手について。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北帝大法文学部 奥羽史料調査部」。
大島	IV	17	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年2月12日	官製葉書	1枚	体調を崩し千葉県勝浦にて静養中であることを告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七二」、差出住所は「千葉県勝浦町新官 押塚方」。
大島	IV	18	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年6月18日	封書	1通(1枚)	東大史料編纂所で筆写した大沢・鈴木家文書を送る。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七七」、差出住所は「仙台市片平丁東北帝国大学法文学部」。
大島	IV	19	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年10月27日	官製葉書	1枚	『文化』9月号の送付を告げ、同誌所収の秋田家文書、留守氏に関する論文の批評を請う。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町」、差出住所は「東北帝国大学法文学部内奥羽史料調査部」。
大島	IV	20	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年10月31日	官製葉書	1枚	古田良一と中村吉治の研究に対する問い合わせについての返事。兩人とも不在という。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「仙台市東北大学奥羽史料調査部」。

資料番号			表題	作成者	作成年代	形態	数量	概要	備考
大島	IV	21	[大島正隆書簡]	大島正隆	1942年11月10日	封書	1通(2枚)	古田良一と中村吉治の研究に対する問い合わせへの回答、秋田家文書についての補足説明、留守氏関係論文への批判要請など。清水三男『日本の中世村落』の読後感を記し、笠原一男『真宗教団展開史』をこれから読むことを告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北帝国大学法文学部内 奥羽史料調査部」。
大島	IV	22	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年1月16日	官製葉書	1枚	新年あいさつ。相馬文書の延文3年11月20日付譲状を筆写し、森へ提供。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町二七三」、差出住所は「仙台市片平丁 東北大学国史研究室」。
大島	IV	23	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年3月27日	官製葉書	1枚	森が年未来仙した際に述べた慶長5年前後の南部家の動静に関する史料が八戸家伝記かどうか問い合わせる。4月10日までに参上したい旨告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は「盛岡市本町」、差出住所は「仙台市片平丁 東北大奥羽史料調査部」。
大島	IV	24	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年4月19日	封書	1通	森の「御奔走」に対する礼状。古田良一を主班として学術振興会内に「東北の風土歴史」を研究する小委員会が設立されることを告げる。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「仙台市東北帝大國史研究室」。封筒、東北帝国大学用箋1枚。
大島	IV	25	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年5月14日	官製葉書	1枚	大島が朝鮮・満州旅行中に来た森からの書簡に対する代理人の返書。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「東北帝大法文学部奥羽史料調査部内」。
大島	IV	26	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年6月4日	官製葉書	1枚	朝鮮・満州旅行からの帰還を告げる。三翁昔語借覧の件で、「金曜か土曜あたり」に訪問したいと希望を述べる。別便で論文が掲載された雑誌を送ったという。	森嘉兵衛宛。宛名住所は同上、差出住所は「仙台市東北帝大國史研究室」。
大島	IV	27	[大島正隆書簡]	大島正隆	1943年7月10日	封書	1通	森宅訪問への謝礼。新田氏関係写本3冊についての問い合わせ。三翁昔語後編はいずれ全部筆写したいと告げる。	現存する最後の森嘉兵衛宛書簡。封筒欠。東北帝国大学用箋2枚。
大島	IV	28	[大島正隆知人書簡写]	(不明)	[年月日未詳]	コピー	9枚	森嘉兵衛宛。	
大島	IV	29	丹堀姓熊谷氏系譜(松原甲介氏蔵)	[大島正隆]	(不明)	手製メモ帖(方眼94×148)	表紙共5枚	標題の史料写し。ペン書き。	